

# BIZ [ ビズスタ ] Life Style



箱根所遊

大人のふたりを安らぎに誘う

箱根が誇る異空間。

My Favorite Life Style



2022年11月30日、開業20周年。「最も予約が取りにくい宿」のこれまでの歩み、これからの展望。

箱根山の中腹に位置する宮ノ下は、古くから「箱根七湯のひとつ」として賑わってきた。今も由緒正しい老舗旅館や伝統のリゾートホテルが建ち並び、古きよき時代の温泉情緒を漂わせる街としてお馴染みだ。その中、箱根連山を望む深谷という立地を誇る絶景の宿「箱根吟遊」が、2022年11月30日、開業20周年を迎えた。

開湯は室町時代にまで遡り、明治期以降の温泉リゾートとしてもすでに百四十余年の歴史を誇る宮ノ下エリアでは、20年という期間は長くない。だが「ここ」の「超」が付く激戦区で、すでに確固たる地位を固めた実績が際立つ「今や」最も予約が取りにくい宿のひとつに数えられる存在へと駆け上がった秘密はどこにあるのか。今回は、代表取締役専務の太田明宏氏を訪ね、詳しく話をうかがった。

— 20周年、おめでとうございます。まずは開業当時の想いや「コンセプト」などをお聞かせください。

長い歴史を持つ宿がひしめくエリアです。ほかにはない個性を活かそうと思いましたが、当時は団体客向けの大型旅館が中心でしたが、まったく異なる発想で挑戦しようと考えて、「大人のふたりが上質な休日過ごすための旅館」というコンセプトを立てました。

— 20年前の温泉旅行と言えばまだグループ旅行が中心という考えが濃厚感ある高級旅館でさえ残っていました。ただ私どもは「自然をゆつくりと体感したい」がコンセプトの中心に考えました。大人のふたり、特に男性が女性をエスコートしたくなる宿というイメージを具現化するために、まずこの素晴らしい箱根の自然を、五感で体感いただける場所にしたという想いを強く抱いていました。

— 日本らしい豊かな四季感を味わえるとなると、外国人からの人気も高そうですね。20年前はまだ「パワウンド」という言葉が定着していませんでしたが、日本人の方々から海外からのお客様が浴衣姿に畳の上で寛いでおられるイメージは、実際に当初からひとつの理想としていました。けれども海外の方に、旅館の魅力を堪能いただければ嬉しいですね。

— 海外のお客様が宿泊された際の「ジンド」をお聞かせ願いますか。

例えばハネムーンで宿泊いただいたイギリス人の夫婦がSNSに文面や写真をアップされたのを機に、その後はハネムーンのご利用が相次ぎました。この時、おもてなしの環として宿からのサービスをご用意したので、写真をお見になった方からは内容のお問い合わせをいただくこともあります。

— おもてなしと言えば、こだわりやポイントなどはありますか。

箱根吟遊では、お客様とご対面した中での対話はもちろん、言葉に表現されないお気持ちも想像し、お客様がどんなことを望まれているのかわかるか察知し、そのときどきに最適な対応を提案を見つけて自ら行動することが重要と考えています。そのため、開業当時からは現在まで接客マニュアルを作成していません。この姿勢は今後も変えず、スタッフはお客様のお気持ちに寄り添いながら「お客様おひとりおひとりに合ったおもてなし」の姿勢があります。

— お客様それぞれの気持ちに合わせたサービスには、どんなものがありますか。

例えばおふたりでの宿泊の際、女性にサングラスを贈りたいと仰る男性は多いのですが、お相手の方がお喜びになる姿が男性側にも新鮮なサングラス

— まだと独自のな世界観のもとに開業したわけですが、お客様の反応はいかがでしたか。

お客様が当初から多くのお客様にご利用いただき、お客様の中には、これまで100回以上ご利用くださっている方が何組いらっしゃいます。

— 「最も予約が取りにくい宿」のこのように聞いたらどう感じますか。

「ご予約が取りにくい宿」のこのように聞いたらどう感じますか。これは良いことではないと感じております。ご予約が取れるまでお待ちいただく場合もありますので、大変心苦しい「サービス業」として出来る限り避けなければならぬと考えております。

— 「ここ」で空間を見渡して「宮ノ下」館内で過ごす時間、居心地のよさは格別ですか。

ありがとうございます。箱根吟遊ならではの雄大な自然を、おふたりに五感で心ゆくまで味わっていただくために、館内から見た景色とそれを中心とした非日常を感じる空間設計には細部までこだわり尽くしました。建物の設計時に設計士さんと繰り返し話し合いましたが、これで完成したわけではなく、さらにより良くと模索を続けております。

— 太田さんは、このエリアの地元育ちでしょうか。地域の風景を知り尽くしていただけない発想です。

風景を讀める時に「絵に描いたような」という表現を使いますが、箱根連山は「常に描き続けている」かのみに表情が目まぐるしく変わるんです。季節や天候、時間帯での変化はもろく、少し横に移動しただけでも印象が異なるほど、自然の折り重なりが豊かなんですね。そこで、ロビー、客室、露天風呂など、それぞれの場所から四季折々の景観を存分に満喫いただけるよう、空間づくりには想いを込めました。

— 日本らしい豊かな四季感を味わえるとなると、外国人からの人気も高そうですね。20年前はまだ「パワウンド」という言葉が定着していませんでしたが、日本人の方々から海外からのお客様が浴衣姿に畳の上で寛いでおられるイメージは、実際に当初からひとつの理想としていました。けれども海外の方に、旅館の魅力を堪能いただければ嬉しいですね。

— おもてなしと言えば、こだわりやポイントなどはありますか。

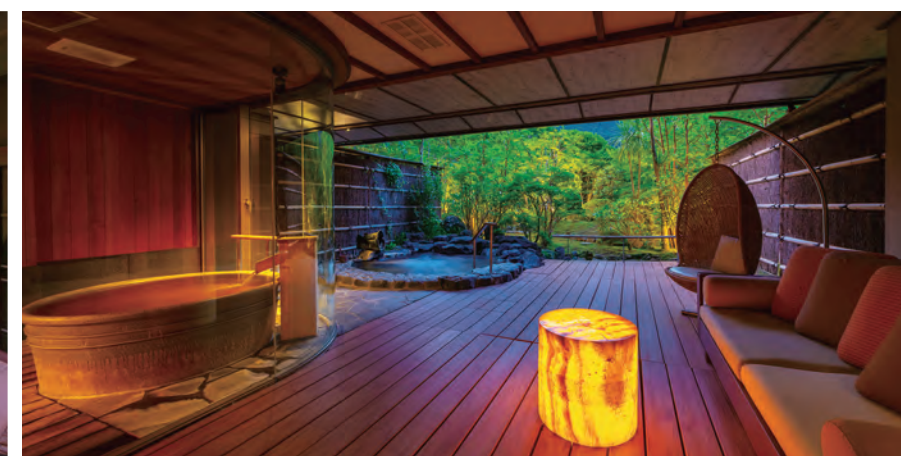
箱根吟遊では、お客様とご対面した中での対話はもちろん、言葉に表現されないお気持ちも想像し、お客様がどんなことを望まれているのかわかるか察知し、そのときどきに最適な対応を提案を見つけて自ら行動することが重要と考えています。そのため、開業当時からは現在まで接客マニュアルを作成していません。この姿勢は今後も変えず、スタッフはお客様のお気持ちに寄り添いながら「お客様おひとりおひとりに合ったおもてなし」の姿勢があります。

— おもてなしと言えば、こだわりやポイントなどはありますか。

箱根吟遊では、お客様とご対面した中での対話はもちろん、言葉に表現されないお気持ちも想像し、お客様がどんなことを望まれているのかわかるか察知し、そのときどきに最適な対応を提案を見つけて自ら行動することが重要と考えています。そのため、開業当時からは現在まで接客マニュアルを作成していません。この姿勢は今後も変えず、スタッフはお客様のお気持ちに寄り添いながら「お客様おひとりおひとりに合ったおもてなし」の姿勢があります。



箱根吟遊 太田 明宏 氏



My Favorite Life Style



## 箱根、「大人のふたり」に贈る休日。

中面で少し触れたが、日本を代表する温泉宿のひとつへと成長した「箱根吟遊」は、客室全室に専用の露天風呂とオープンテラスを備えている。こうした設えは、開業当時の20年前はほぼ事例がなく、これも前述の館内各所から望む風景の素晴らしさとともに、宿の評判を押し上げる原動力となった。

### ロビーから湯処まで とにかくサッパイズが連続の館内

箱根吟遊は、箱根湯本駅で小田急線から箱根登山鉄道へと乗り継ぎ、宮ノ下駅から徒歩3分ほどの場所にある。スタッフの出迎えを受けてロビーに入ると、目の前には南国のラグジュアリーリゾートを思わせる空間が広がる。本誌表紙の写真の通り、豊敷きに木の骨組みが高く天井まで伸びる風景は、伝統的な日本旅館を想像していると思わず驚きの声が出るほどの異世界感。否が応にも期待が高まるこのオリエンタルな雰囲気は、前ページで話をうかがった太田氏がインドネシアのバリ島を訪れた際に着想を得たものとのこと。壁面は備長炭、床は琉球畳、その奥の巨大な窓には生きた絵画のような箱根連山の緑彩。この見事なロビー空間だけでも見の価値アリと言えよう。

その隣の展望ラウンジも、中面で紹介した少し横に移動するだけで別の景色になる「箱根連山の絶景スポットのひとつだ。座る席によつて、あるいは時間の違いによつてもパノラマの表情が大きく変わるの、ぜひ「試写」を愉しんでみたい。なお、このフロアは、実は最上階

にあたる5階に位置しており、ガーデンラウンジがある1階まで巨大な吹き抜けが館内を貫通。1階に流れる水音が全フロアにやさしく響くという粋な演出も心地よい。

### そのほか、森の回廊を抜けた離れの「Ginyu Spa」では、雄大な自然を望むウォーターガーデンや源泉かけ流しの露天風呂、さらにベアルームを完備しているの、パートナーとともに極楽エステを受けられることも可能。こちらも、まさに「ふたりで過ごす休日」というコンセプトに相応しい設えだ。

客室はメゾネットスタイルを含め、4タイプ全20室。食事は朝夕ともに部屋食で、バーから飲み物の手配も可能だ。前述の通り、とにかく予約困難な人気宿なので、どうか諦めずに予約トライを。



### 御宿泊料金(一例)

客室タイプ	風	星		空	月
	(4F) 和室	(3F) 和室・洋室	(3/4F) メゾネット	(2F) 和室・洋室	(1F) 和室・洋室
2名様	¥44,150~	¥35,350~	¥41,950~	¥33,150~	¥45,250~

●左記料金はオフシーズンの1泊2食(サービス料、消費税、入湯税込)、1名様分の平日料金です。

●休前日、またシーズンにより宿泊料金の変動がございます。詳しくはHPのROOM RATE LIST、またはお電話にてお問い合わせください。



神奈川県足柄下郡箱根町宮ノ下100-1 TEL.0460-82-3355  
チェックイン14:00、チェックアウト11:00

### アクセス

電車/箱根登山鉄道「宮ノ下」駅から徒歩3分  
車/小田原厚木道路小田原箱根ICより国道1号線約20分

[www.hakoneginyu.co.jp](http://www.hakoneginyu.co.jp)